
私がそばに

奪い合いコング

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私がそばに

【Nコード】

N9937H

【作者名】

奪い合いコング

【あらすじ】

ある少女が体験した不思議なお話。やっぱり不思議は多いんだ。

(前書き)

拙い文章ではありますが、雰囲気だけでも感じて頂けたら、嬉しく思います。

…歌が聞こえた。

慣れ親しんだ声だった。

どうしてだろう…その声は悲しみに満ちていた。

ほら、泣かないで。

私がそばにいるのだから…

…いつもの事だった。

それが私の通る秘密の道だったから。

大人は誰も知らない、知っているのは、私の親友のみっちゃんぐらいなものだ。

お母さんや先生は危ないから近付くなって言ってるけど、へっちゃらだった。

だって、猫がそこを通っているのを見たことがあるから。今日だってそこを通るつもり。そうだ、今日は久し振りにみっちゃんと通ろう。

うん、それがいい。

「え…うん。でもね、この前一緒にあの道を通って…私ママに怒られちゃったの。スカートを汚しちゃって、理由を聞かれて…ごめんね。」

みっちゃんは泣きそうな顔をしながら、そう答えた。

そうか…最近なんだかつれないなと思ったら、そんなことだったのか。残念…。

仕方ないから今日も一人で行こうっと。

…あ、雨だ。

もう：朝の天気予報では降らないって言ったのに。
急いで行かなきゃ。

：そう、いつもの事だった。

雨が急に振り始めて、しかもそれが土砂降りになるような雨だった
以外は：。

気が付くと私は布団で横になっていた。

「あれ：？なんで私こんなところで寝てるんだろ：。」
上体を起こした私はそつとつぶやいた。

ふと見上げた天井は、見慣れた我が家のそれだった。

今が何時か気になった私は、壁に掛かった時計を見た。

「うーん：：三時？」

どっちの三時かは分からなかったが、とにかく今が三時ということ
は分かった。

「お父さんとお母さんはどこだろ：」

そう誰ともなく言った私は、布団から起き上がり、両親の寝室を覗
きに行くことにした。

だが、そこには誰もいなかった。

仕方ないので、外へ出ることにした。

「あれ：夜：？」

外は月の明かりに照らされて明るかったものの、暗闇に覆われた世
界だった。

「なんでお父さんとお母さんいないんだろ：」

その時だった。

：歌が聞こえた。

慣れ親しんだ声だった。

どうしてだろう…その声は悲しみに満ちていた。

その声に導かれるように、私の足は一步一步歩みを進めた。

そして、その歌は、私の学校の体育館から、ピアノの音とともに聞こえていることが分かった。

…そこで歌っていたのは、みっちゃんだった。

私はガラス越しにみっちゃんに手を振った。けれどみっちゃんは歌うことに夢中なのか、私に気付くことはなかった。

私は開いていた体育館の入口から中に入ると、大声でみっちゃんに向かって叫んだ。

「みっちゃんーん！」

手を振りながらみっちゃんの方へ駆け寄ったが、やはりみっちゃんには聞こえていないようで、何の反応もなかった。

そこで私は始めて気が付いた。

みっちゃんは泣いていた。

私はみっちゃんのそばまで来ると、いつもみっちゃんが泣いてしまった時のようにささやいた。

「ほら、泣かないで。私がそばにいるから…」

そして、その言葉が聞こえたのか、みっちゃんは、私の方へと振り返った…。

「うん…」

みっちゃんが泣きながら返事をする、私は眩い光に包まれた。

送る歌を歌い終えた私は、彼女が最後に伝えたあの言葉を信じ、あの日から泣くことをやめたの。

今でもきつと彼女は私のそばにいてくれている。

だからこそ私はここまで強くなれたんだもの。

悲しい思いはあるけれど、寂しくはないよ。

彼女の墓参りに娘と来ていた私は、娘にそう言って聞かせた。

…娘はただただ微笑んでいるばかりだった。

そして一言…

「私がそばにいるから…」

(後書き)

お目汚しな文章で申し訳ありませんでした…
読んで頂きありがとうございます。
それではまたお会いできますように…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9937h/>

私がそばに

2010年10月15日15時12分発行